

■ 計画の基本的な考え方

将来のめざす社会像

誰もが社会から孤立することなく、ありのままの自分が認められ、いつでも小休止でき、多様な生き方を選択し、希望をもって安心して暮らせる社会

3年後の目標(めざす姿)

県民の皆さんのひきこもりに関する正しい理解を促進し、当事者・家族・社会の“つながり”の回復に向けて、当事者やその家族に寄り添った支援体制づくりを進めることにより、ひきこもり支援に関する社会全体の機運が醸成されています。

■ 計画全体の目標

目標項目	現状値 (3年度)	4年度 実績	5年度 実績	6年度 実績	6年度 目標値
「ひきこもりに関する理解が進んだ」と感じる 県民の割合(※1)	—	87%	90.9%	88.8%	70%
「ひきこもり当事者やその家族に寄り添った 支援体制の整備が進んでいる」と考える相談 支援機関の割合(※2)	—	37%	57.8%	51.3%	70%

「三重県ひきこもり支援推進計画(R4～6年度)」計画目標等の進捗状況

■ 6つの取組方向ごとの目標(モニタリング指標)

取組方向	項目	現状値 (3年度)	4年度 実績	5年度 実績	6年度 実績
取組方向1	○ひきこもり支援に関する講演会等への参加者数	－	382人(4月) 420人(8月)	500人	305人
	○SNSアカウントにおける投稿件数	－	215件	150件	213件
取組方向2	○市町における相談窓口の明確化・周知および市町プラットフォームの設置・運営数	相談窓口21市町 プラットフォーム19市町	相談窓口29市町 プラットフォーム20市町	相談窓口29市町 プラットフォーム23市町	相談窓口29市町 プラットフォーム25市町
	○相談支援機関における新規相談件数	－	1,338件	1,298件	951件
	○不登校児童生徒が、学校内外の機関等での相談・指導等を受けた割合	小学生 72.9% 中学生 63.2% 高校生 58.0% (2年度)	小学生 70.9% 中学生 61.5% 高校生 49.9%	小学生 63.5% 中学生 60.4% 高校生 49.2%	小学生 60.1% 中学生 60.1% 高校生 46.5% (R6年度暫定値)
取組方向3	○三重県ひきこもり地域支援センターにおける専門相談件数(延べ)	275件(2年度)	368件	531件	593件
	○家族教室への参加者数(延べ)	42人(2年度)	56人	103人	64人
取組方向4	○三重県ひきこもり地域支援センターにおける多職種連携チームによる支援件数	－	17件	20件	23件
	○アウトリーチ支援員による面談・訪問・同行支援件数(延べ)(三重県生活相談支援センター)	127件(3年12月)	237件	272件	486件
	○不登校支援アドバイザー等による訪問型支援を実施した人数および実施回数	22人／134回 (2年度)	87人／303回	220人／941回	221人／949回
取組方向5	○ひきこもり当事者のための居場所数	24か所	42か所	45か所	48か所
	○子どもの居場所数	78か所(3年12月)	135か所	181か所	238か所
	○民間施設(フリースクール等)が行う体験活動への支援回数	17回(3年12月)	76回	29回	27回
	○地域若者サポートステーションにおける相談件数	6,518件(2年度)	5,960件	6,542件	6,453件
取組方向6	○相談支援包括化推進員養成数(累計)	56人(2年度)	107人	126人	137人
	○ひきこもりサポーター制度の創設	－	調査検討	方針変更	スキルアップ研修開催

「第二期三重県ひきこもり支援推進計画」に基づく取組の推進

■ 第一期計画の成果と総括

- ひきこもりに関する専用相談窓口の設置等、市町の支援体制の整備が進むとともに、県民の皆さんにひきこもりについて関心をもってもらったきっかけづくりとなった。
- 一方で、ひきこもりに関する正しい理解が県民全体に広く浸透したとまでは言えない。また、地域全体で支援していくためのネットワークづくりや、当事者・家族のニーズに沿った社会資源が十分に整備されているとは言えず、より一層の取組が必要。



■ 第二期計画(R7～11年度)

5年後の目標(めざす姿)

ひきこもりは誰にでも起こりうるものであり、ひきこもり状態になったとしても、早期に支援につながるができるよう、安心して訪れることができる居場所等の社会資源を確保することにより、十分な支援体制が整備されています。

第二期計画で注力する取組

- 支援機関の周知
- 当事者や家族に寄り添った支援体制の充実
- 支援者支援の強化

「第二期三重県ひきこもり支援推進計画」 概要①

ひきこもり支援に係る現状の課題

- ① ひきこもりについての理解促進 ② 支援機関の周知 ③ 支援や社会資源の充実
- ④ 広域連携的な視点と包括的な視点を持った支援の推進 ⑤ 県の後方支援の充実

計画期間

令和7年度から令和11年度

第二期計画の支援対象者

- ◇ ひきこもり状態にある方
- ◇ 家族
- ◇ 支援者

何らかの生きづらさを抱え、
家族を含む他者との交流が
限定的または希薄な状態

ひきこもりを
定義しない

ひきこもりの
期間を問わない

三重県における「広義のひきこもり」推計値

こども・若者の意識と生活に関する調査(R4 内閣府) における出現率から推計

年齢層	県の人口	出現率	推計値
15歳以上39歳以下	399,517人	2.05%	8,190人
40歳以上64歳以下	570,432人	2.02%	11,523人

約2万人 合計 19,713人

将来のめざす 社会像

誰もが社会から孤立することなく、ありのままの自分が認められ、いつでも小休止でき、多様な生き方を選択し、希望を持って安心して暮らせる社会

5年後の目標(めざす姿)

ひきこもりは誰にでも起こりうるものであり、ひきこもり状態になったとしても、早期に支援につながるができるよう、安心して訪れることができる居場所等の社会資源を確保することにより、十分な支援体制が整備されています。

計画全体の目標

目 標 項 目	現状値	目標値
ひきこもり当事者のための居場所数	45か所	60か所
「ひきこもり当事者やその家族に寄り添った支援体制の整備が進んでいる」と考える相談支援機関の割合	57.8%	80%

「第二期三重県ひきこもり支援推進計画」概要②

重視すべき視点	施策展開と取組方向
ひきこもりについての正しい理解	① 情報発信・普及啓発 ひきこもりについての正しい理解の促進 【新】支援機関の周知促進 等
課題解決型支援と 伴走型支援	② 家族支援 家族に寄り添った相談支援 家族支援の充実 【新】家族交流会の拡充
アウトリーチ 支援	③ 当事者支援 当事者に寄り添った相談支援 アウトリーチ支援の充実 【新】当事者交流会
DXの推進	④ 相談支援体制の充実 支援につながるための窓口の多様化 【新】ピアサポートセンター開設 包括的な支援体制の構築 等
専門的支援と 後方支援	⑤ 社会参加・活躍支援 社会との接点を持つ機会の提供 【新】市町等と連携した居場所づくり 段階的・継続的に社会参加・活躍できる環境づくり
	⑥ 支援者支援 新 相談支援、連携体制の充実に向けた支援 専門性を生かした支援 【新】多職種連携チームの市町等支援 等
	⑦ 多様な担い手の育成・確保 ひきこもり支援に関わる方等への理解促進 【新】ピアサポーターの養成

